

第327号

2011年

8月10日

# どついたニュース

全損保日動外勤支部

東京都中央区銀座5-13-7

東銀座東京海上日動ビル1階

電話 03-3542-9857

FAX 03-3542-9858

教宣部 発行

## 被爆66年 原水禁広島大会

# 日本が牽引して核廃絶を

## 支部を代表し澤田委員長が参加

広島で開催された“被爆66年 原水爆禁止世界大会 広島”に、8月5日・6日の両日、支部を代表し、澤田委員長が参加しました。澤田委員長から本大会に参加したレポートが届けられましたので、掲載します。

澤田委員長のレポートにも書かれていますが、毎年、全損保代表団を“慰霊碑めぐり”で案内してくれ、自らも被爆者であられたご経験から、生々しい体験談を語り継いでこられた東海支部OBの村田忠彦さんが今年お亡くなりになりました。村田さんの遺志が継がれ、引き続き“慰霊碑めぐり”が行われたことは、“ヒロシマ”、“ナガサキ”の経験を決して風化させずに一人でも多くの方に伝え、核兵器のない“平和”な世界を築いていこうという、広島地協連絡会の仲間の皆さんの力強いメッセージだと感じました。

奇しくもいま日本は、東日本大震災が原因で起こった福島第一原発の放射能漏れ事故の影響で、再び原子力による放射能汚染という現実さらされています。こういう状況から今年は、広島・長崎の「原爆の日」を前に、福島で“原水禁世界大会”が開催されました。

こういう時だからこそ、あらためて、「平和とは何か」「安心して暮らしていけるとはどういうことなのか」を、問い直したいと思います。

## 原水爆禁止 2011 年世界大会、広島に参加して

日動外勤支部 澤田

今回、全損保東京地協代表団の一員として、8月5日～6日の2日間参加してきました。日程は、5日17時15分から慰霊碑めぐり、18時30分から損保平和交流集会があり、6日8時30分から損保原爆犠牲者慰霊祭、13時から2011年世界大会 - 広島がありました。日動外勤支部からは、澤田、井出（東京地協）、長田（大阪地協）、守谷、新居の6名が参加しました。

慰霊碑めぐりでは、今年亡くなられた村田さんの遺志を継いで、広島地協連絡会の浜中さんと洪川さんから丁寧に説明していただきました。慰霊碑は60近くあるそうですが、

広島市立高女原爆慰霊碑、マルセル・ジュノー博士記念碑、被爆したアオギリ、全損保の碑、峠三吉詩碑の順でめぐりました。広島市立高女は676人が被爆死し、市内の学校では最も多くの犠牲者を出しています。碑の中央で天使の翼をもつ制服・モンペ姿の犠牲となった少女が $E = MC^2$ と刻んだ箱を抱えています。連合軍の占領下「原爆」という文字が使用できず、アインシュタインの相対性理論からとらえた原子力エネルギーの公式を刻んだという説明を聞いたときは、悲しいものを感じました。また、峠三吉は28歳の時被爆し36歳で亡くなるまで、占領軍による原爆反対運動への弾圧が激しさを増す中、原爆反対の詩集をまとめあげ、人から人へと頒布していったとのこと。碑には「ちちをかえせ ははをかえせ としよりをかえせ こどもをかえせ わたしをかえせ わたしにつながる にんげんをかえせ にんげんの にんげんのよのあるかぎり くずれぬへいわを へいわをかえせ 峠三吉」とあり、全文平仮名なのは「子供にもわかるように」との思いが三吉にあったからだと言われています。なお、全損保の碑は、当時市内には14の保険会社に200人の社員が勤務しており、そのうち89人が犠牲となり、慰霊のため建立されました。碑文は「なぜ あの日はあった なぜ いまもつづく 忘れまい あのにくしみを この誓いを」と刻まれています。戦後間もない頃の多くのモニュメントが占領政策の影響を受ける中、この碑は、原爆投下の犯罪性を鋭く指摘し、平和な世の中を築くための行動を新しい世代へと継承させることを呼びかけており、その意味で存在意義の大きいものとなっています。また、平和公園内にある労働組合唯一の慰霊碑です。慰霊碑めぐりの途中、資料館の地球平和監視時計に立ち寄り、広島に原爆が投下された日からの日数は24,105日でしたが、最後に核実験が行われた日からの日数は、アメリカが今年の3月31日に行った未臨界核実験のため、127日となっていました。

慰霊碑めぐりのあと、アンデルセン・デンマーク間で損保平和交流集会が行われ、歓談し懇親を深めました。途中原爆詩の朗読があり、胸を打たれる思いがありました。最後に集会アピールを採択し終わりました。

次の日の8時30分からは、全損保の碑の前で損保原爆犠牲者慰霊歳が行われ、参加者全員で献花し、損保関係従業員89名の御霊を慰め、核兵器のない恒久の平和を祈念しま

した。

その後、午後の世界大会まで時間があつたので、今回広島が初めての私は、資料館と記念館を観覧しました。原爆のため廃墟となった広島、被爆によって苦しんで亡くなられた人、しんちゃんの三輪車など、また、なぜ広島に原爆を落とされたのかなど、資料館でいろいろな現実や真実に触れ、アメリカや当時の日本の政治に対して怒りを覚えました。そして、核兵器は二度と使用してはいけなし、核兵器の開発を止めなくてはいけないという思いを強く感じました。

また、現在福島第一原発の問題でもいろいろなことが明らかになってきましたが、現在の科学力では人間と原子力は共存できず、放射能のゴミを処理できず地中深く埋めて、将来に課題を残すことは無責任で、今がよければよいという身勝手な考え方です。さらに、原子力を正当化するため、あまりにも今まで、隠蔽・捏造が多すぎて不信感が強くなってきています。

66回目の広島原爆忌において、被爆二世でもある松井市長は平和宣言で「すべての被爆者から体験や平和への思いをしっかりと学び、次世代に、世界に伝えていかなければならない」と述べています。被爆者の気持ちを踏みにじるようなことはもうやめて、唯一の被爆国である日本が世界を牽引して、核廃絶を訴えるべきだと強く感じました。午後に参加した平和大会でも、世界の人々がそのことを望んでいると感じました。